

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	株式会社KF Table			代表者名	佐藤淳也
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名		連絡先電話番号	090-4633-8300
担当者役職	代表取締役	担当者氏名		連絡先E-mail	
住所	999-3511 山形県河北町谷地甲85				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	河北町	連絡先部署	農林振興課農業振興係		
担当者氏名	泉 政彦	連絡先電話番号	0237-73-2112	連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	食と農の需給マッチング支援事業
概要	農産物流通のDXを推進するにあたり、農業現場や消費現場に浸透させるための要点整理とともに、適切なデジタルツールの選定にあたって必要となる視点や留意点について、農家が理解できるようアドバイスをいただきたい。併せて、規格外農産物の活用、高付加価値化の方向性についても助言を得たい。		
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成） AI活用 農林水産業 地域ビジネス		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年12月14日	フォローアップ(実地)	10時00分	13時15分	
				活動時間（分）	195
2-2. 派遣場所	会場名	事務所		最寄駅	山形空港
	所在地	山形県西村山郡河北町谷地甲85		最寄駅からの交通手段	空港シャトルバス

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	小出 範幸				
評価	大変良い				
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	前日の現地実証を踏まえ、関係者間の情報共有の課題を整理し、電話や口頭連絡では記録が残らず属人化するという問題点を明確にいただいた。そのうえで、LINEを活用した非同期型の情報共有と記録の蓄積が、業務効率化だけでなく心理的な負担軽減にもつながることを、実例を交えて整理してもらえた。単なるツール説明ではなく、事業としてどのように活用できるかという視点で助言をいただけた点が非常に有益であった。				
アドバイザーへの要望事項	試験的に導入したLINEによる情報共有の仕組みを、より多くの農家に展開していくため、高齢の農業者でも利用しやすい運用方法やサポート体制について引き続き助言をいただきたい。また、蓄積されたデータをどのように分析し、原料調達や商品開発に活かすかについても、継続的な支援を期待したい。				

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	2人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数			その他(学生など)
			2	

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	規格外野菜や余剰農産物の情報が電話や口頭でやり取りされており、記録が残らず、発生状況や傾向を把握できないことが課題であった。そのため、加工業者として計画的な原料調達や商品開発が難しい状況にあった。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	農家と加工業者の間で情報が記録として蓄積される仕組みを整え、規格外野菜の発生状況を見える化し、将来的に加工品開発や仕入計画に活用できる状態を目指した。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	前日の現地実証を踏まえ、情報共有のあり方を整理し、LINEを活用した窓口集約、非同期コミュニケーション、写真と簡易情報の活用、記録の蓄積といった仕組みの意義を明確化していただいた。また、農家(安部ファーム)に対して、通知設定や使い方のフォローを実施していただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	農家と加工業者の間で、「電話でその場限りのやり取りをする」という状態から、「LINE上で記録として情報を残す」運用了解が得られた。 これにより、今後データとして蓄積・活用できる基盤が整った。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	①事業に係る計画書等を策定できた
	規格外野菜情報をデジタルで集約・活用する構想の整理	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	現時点ではデータの蓄積と分析を十分に行う段階には至っておらず、実際の仕入れ計画や商品開発に反映するには継続的な運用が必要である。また、LINEやスマートフォンの操作に不慣れな高齢農業者も多く、すべての農家に同じ仕組みを広げるための支援方法や運用の工夫が今後の課題として残っている。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	今回は現地での個別支援と意見交換を中心に実施したため、紙やWebによるアンケートは実施していない。その代わり、農家および加工業者との対話を通じて、課題や使い勝手を整理した。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	試験導入した情報共有の仕組みを継続運用し、対象農家の拡大と、データの蓄積・活用方法の検討を進める。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	農家から規格外野菜や余剰農産物の情報が自然に集まり、それをもとに加工業者が原料調達と商品開発を行い、廃棄を減らしながら地域内で価値が循環する仕組みを構築することを目指す。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

[https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past\\_year\\_all\\_houkoku/](https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/)

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

